

【研究テーマ】 「自己教育力を育む教育～試行『(かつての) ひとりで学ぶ』授業づくり～」

○アドバイザー 岡山大学教育学部教師教育開発センター 高旗浩志教授

【本年度の重点的取組】

本校は、「河北中学校めざす授業の姿」を基に、小集団活動での学び合いから自力で課題に対する答えを導き出す力、「個の自力解決」力の育成を目指して実践を積み重ねている。本年度は「個の自力解決」力の育成の指標として単元構想の視点を踏まえた「自己学習カード」の活用に取り組み、関わり合いで学んだことを個の学習への深まりへとつなげていくための研究を推進している。

○河北中学校 第1回授業研究会 平成30年5月30日(木)

1. 公開授業 (9:45～12:20) 2～4限 全クラス

どの教室でも生徒が友達と関わり合いながら課題解決を図る様子が見られたが、その小集団活動がどのような意図で行っているのかを明確にしておかなければならない。そのためには課題設定を含め、単元のまとまりで授業構成を考えていく必要がある、と助言を頂いた。また、個の自力解決力を育成するためには、まずは課題に対する自分の考えを持つことが大切である。時間の確保と「正しい答え」を求めるのではなく、安心して熱中できる中で自分の考えを持つ「学習規律の確立」が重要であるという指摘を頂いた。大切なのは生徒同士が「分からない」を言える雰囲気であり、お互いに助け合い、高め合う「支持的風土」を作っていく必要がある。

2. 研究授業 3年生 英語 Program2 “Volcanoes in Japan” (Sunshine English Course2 開隆堂)

【河北中学校授業参観の5つの視点】

- ① 追究する値打ちのある課題設定であったか。
- ② 「自分の考え」をもつ時間があったか。
- ③ 小集団活動は意図的なものであったか。
- ④ 「自力解決の時間」は有効なものであったか。
- ⑤ 単元構想を踏まえた「自己学習カード」はどのようなものであったか。

【アドバイザー高旗教授からの指導・助言】

視点①

・「英語の即興性」を育成するための Retelling 活動の学習課題の設定は、生徒の思考・判断・表現力を育成する上で有意義な課題である。しかし、教科書本文を自分で言い換える活動は、短期的な記憶の再生となり、長期的な記憶による知識・技能の定着を図ることが出来ない危険性がある。

その解決策としては、「学び合い」が有効な手段となる。協同学習の手法を用いた授業形態は、互いの意見を持ち寄り関わり合いながら課題解決を図るために、記憶の定着を促し易い。「価値ある課題設定」と「学習形態の工夫」が授業改善の重要な鍵となる。

視点②③④

- ・教科書を最大限に活用する学習活動が設定してあることが良い。「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」という視点を大切にすべきである。
- ・分からないことを“分からない”と言える親和的な雰囲気と生徒同士および生徒と教師の信頼関係がよく築けていた。この2つが、学習の土台となる。

「学ぶ」とは、「分からない」と言えるところから始まる。安心して「分からない」と言える人間関係が必要。そして「どのように分からないのか」を中途半端にこそ表現させる。思考・判断・表現とは完成形を披露させることではない。生煮えの言葉を紡いでいく授業展開こそが、生徒を主体的・対話的にし、学びを深めることに繋がる。

視点⑤

- ・「自己学習カード」の活用は単元構想を基にした授業づくりのためには必要である。学習の見通しを持つことで、生徒は課題と目標を客観的に捉えることができる。毎時間の学習課題と単元の到達目標の関連性を明確にすると生徒が活動に取り組み易い。
- ・「生徒と共に授業を創る」視点が重要である。単元構想を生徒と共有することで、見通しを持ち、主体的に学習に取り組む姿が増える。

3. 研究協議 ～今後に向けて～ 【アドバイザー高旗教授からの指導・助言】

河北中は「めざす授業の姿」を基に授業スタイルの研究が進んでいる。

本年度は単元構想を踏まえた「自己学習カード」の活用に取り組んでいるが、カリキュラム・マネジメントの視点で授業を設計することが大切である、と助言を頂いた。カリキュラム・マネジメントの4つの視点—①「何を学ぶか」(☞教材と生徒との関わりを重視した魅力ある課題設定) ②「何ができるようになるか」(☞学習を積み上げる単元構想) ③「どのように学ぶか」(☞言語活動・関わり合いの設定) ④「何が身についたか」(☞自力解決の時間・自己評価(振り返り)の充実)を意識しながら、授業を構成していくことが大切である。単元の見通しと本時目標・評価規準の言語化・学習の理解度や課題の把握等の観点で自己学習カードの内容を検討し、活用を推進していくことが今後の課題である。

【第1回授業研究会の様子】



関わり合いながら課題解決



「自己学習カード」



個の自力解決 最後は「ひとりで学ぶ」

『河北の学び』の中心は、仲間との関わりを通して学力を身につける授業（「対話」と「協同」のある授業）への変換である。小集団を活用し、すべての生徒を主体的に学習に参加させる授業の中で、個の自力解決の力をつける授業とはどうあるべきか、実践を積み重ねながら授業改善に取り組んでいきたい。